

最近、ロシアを拠点にするサイバー犯罪集団による攻撃が深刻化

- 2020年：「Ryuk」が米国で病院に大規模にハッキング
- 2021年4月：「REvil」がAppleのガジェットと部材のサプライヤーである台湾のパソコンメーカー「クアンタ・コンピュータ」（広達電脳）にハッカー攻撃をかけ、未発売のApple製品の機密情報にアクセスし、5000万ドルを要求 [Appleはコメント拒否]
- 21年5月初：「ダークサイド」による米・パイプライン大手のコロニアルパイプラインに対するランサムウェア（身代金ウイルス）攻撃:
 - 440万ドル相当の身代金をビットコインで支払った（6月7日 米司法省は230万ドル相当を犯罪組織から奪還したと発表）。
- 21年5月末：「REvil」による世界最大の食肉業者JBS(本社・ブラジル。米国に大規模工場多数)に対するランサムウェア攻撃 → 6月9日、1100万ドル相当の身代金をビットコインで支払った
 - 米国は露に責任を求めたいが、露は無関係で証拠もないと主張。6/16の米露首脳会談でも論点に。
(GRUなどがサイバー犯罪集団と繋がっている可能性も指摘される [イスラエルや日本のセキュリティ専門会社の方の意見])

旧ソ連の2020-21年の混乱

※番号は右の地図に対応

1.ロシア：反体制派ナヴァルヌイをめぐる問題

2.ウクライナ：クリミア問題・東部の危機の継続、21年の露軍の国境集結による緊張

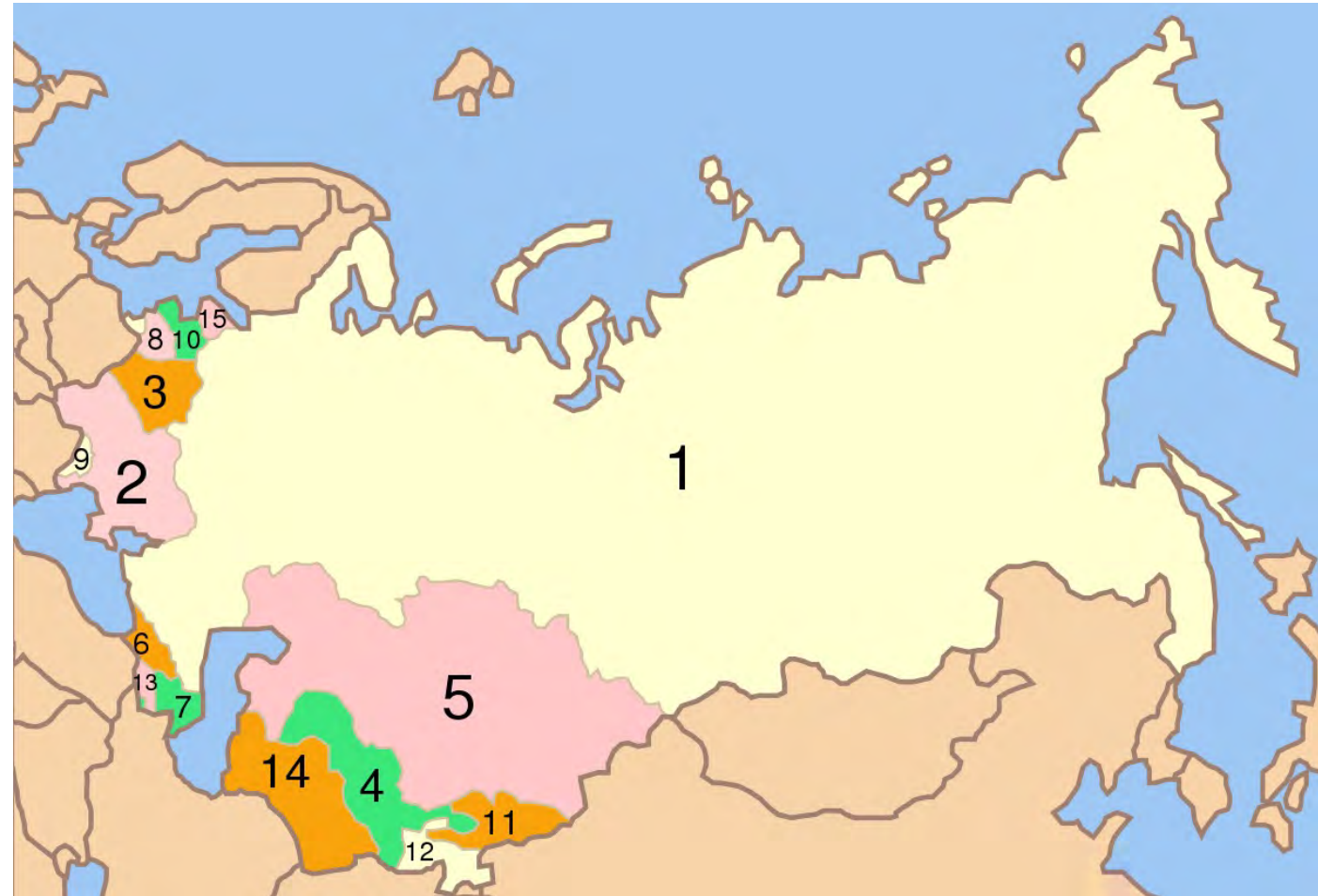
3.ベラルーシ：20年夏～秋に大統領選挙の結果をめぐる大規模抗議活動と反対派の弾圧；21年5月に旅客機強制着陸問題および反体制派ジャーナリスト・プロセタビッチの逮捕、拷問

9.モルドヴァ：20年12月、親欧米大統領の誕生

7.アゼルバイジャン/13.アルメニア：20年9月27日～11月10日に両国間でナゴルノ・カラバフ紛争再燃【アゼルバイジャン勝利で停戦合意】（※ 参考文献 4, 5, 6）

11.キルギス/12.タジキスタン：21年4月末、両国が国境衝突

旧ソ連諸国



1=ロシア、2 =ウクライナ、3 =ベラルーシ、4 =ウズベキスタン、5 =カザフスタン、6=ジョージア（グルジア）、7 =アゼルバイジャン、8 =リトアニア、9 =モルドヴァ、10=ラトビア、11=キルギス、12=タジキスタン、13=アルメニア、14=トルクメニスタン、15=エストニア

旧ソ連の2020-21年の混乱はロシアの求心力低下によるものか？

(※ 参考文献 3)

- ロシアにとって、外交の最大のプライオリティは旧ソ連地域 (= 近い外国) に対する影響力の維持【地政学的な勢力圏構想】
 - **20-21年の旧ソ連の相次ぐ混乱はロシアの求心力の低下という見方**
 - 部分的には正しい
 - (例：ナゴルノ・カラバフ紛争のロシアが仲介した停戦が2度即座に破綻)
 - ①各国の問題、ないし、②旧ソ連の諸問題（国境問題など）が約30年間放置されていたことの歪みが出た、と見るのが適切では？
- プーチン大統領は20年12月に「（旧ソ連）域内の状況に**問題がないわけではなく、全体として落ち着かなかった**」と認める一方、「**欧米の干渉によって旧ソ連の混乱が引き起こされた**」とも何度も発言。
 - ※ ロシアは基本的に、欧米の「被害者」だという意識
 - 特に許し難いNATO、EUの拡大

EU拡大 (現在27ヶ国)

